

『ポール・ハリスの日本訪問』

1905年2月23日にシカゴ・ロータリークラブが誕生しました。20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、シカゴに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいとロータリー・クラブを創設しました。

それから20年以上たち、ロータリー・クラブの発展はすばらしく、アメリカばかりではなく世界中に広がっていきました。

ポール・ハリスはカリスマの創始者です。アメリカ中のクラブから「我がクラブに来てほしい」との誘いがかかりました。彼は、自分の立場を心得ていて、招かれるままにどこへでも気さくに訪問し、ロータリー活動の素晴らしさについて講演して行きました。

海外も同様です。1928年にはハリス夫妻はヨーロッパに向かいました。

イギリスには既に200以上のロータリー・クラブができていたのです。

ハリスは、地区大会に出席するだけでなく、各地の例会にも積極的に出席し、例会後には病気のロータリアンを見舞うことを常としていました。

1935年(昭和10年)ついにポール・ハリス夫妻が極東に向かって旅立ちました。

目的地は、ハワイ、日本、中国とフィリピンでした。サンフランシスコを出航して5日目にハワイに到着し、大歓迎の後ホノルルを出航、8日目に横浜に到着しました。一行15人は、日本の玄関横浜港に着くと、威儀を正した日本のロータリアン多数の出迎えを受けました。横浜が12年前の震災で徹底的に壊滅したことをハリスはよく知っていました。しかし、勤勉な日本人はこの12年間で完全に再建して、惨害の痕跡すら残っていなかったのです。

ハリス夫妻は東京の帝国ホテルに向い、晩餐会で日本のロータリーの創始者である米山梅吉氏と会ったのです。米山は傑出した実業家で、ロータリー活動にも深く関わってきました。

ハリスは、米山のことを非常に尊敬していて、彼から日本人の風習や物の考え方について説明を受け理解を深めました。晩餐会は、徳川家達侯爵など大政治家も参加した盛大なものでした。

その後、夜汽車で京都へ向かい、ホテルに宿泊後桂離宮などの観光を楽しんで大阪に向かいました。大阪は「日本のシカゴ」と呼ばれる都市で、ハリスはそこで、村田省蔵に会ったのです。

村田は大阪商船の社長で国際ロータリー70地区、全日本22クラブのガバナーでした。

その夜、殆どすべての日本のロータリー・クラブからの代表者が、レセプションと晩餐会に参加しました。ハリスが拍手喝采を浴びながら宴会場に入ってくると、主賓席にもう一人のハリスがいるのに気付きます。それは、米山が芸術家に作らせた胸像だったのです。

このことからハリスがいかに日本で歓迎されたかが分かります。

その後、村田はハリス夫妻を車で神戸まで送り、一行は再び船上の人となり上海へと向かったのです。

皮肉なことに、その6年後に日本はアメリカとの太平洋戦争に突入するのです。ポール・ハリスの嘆きが聞こえてきそうです。

